

ゾーフィゴ（塩化ラジウム²²³Ra）による治療を開始

～骨転移のある去勢抵抗性前立腺がんの治療に世界で初めてアルファ線を放出する放射性医薬品を～

RI 治療において、新しい抗悪性腫瘍薬「ゾーフィゴ®静注」が認可されました。当院は12月より治療を開始しました。

ゾーフィゴとは

本剤は骨転移部位に取り込まれることで抗腫瘍効果を発揮する薬剤です。

ゾーフィゴには、アルファ線放射核種の「ラジウム-223」が含まれています。このラジウム-223には、骨の成分であるカルシウムと同じように骨に集まりやすい性質があり、静脈注射で体内に送られると、代謝が活発になっているがんの骨転移巣に多く運ばれます。そして、そこから放出されるアルファ線が、骨に転移したがん細胞を攻撃します。

こうした作用によって、骨転移した去勢抵抗性前立腺がん（男性ホルモンの分泌を抑える治療を実施しても病状が悪化する前立腺がん）に対して治療効果が期待できます。

アルファ線の特徴について

ゾーフィゴの治療で要となるアルファ線は、エネルギーが高く、細胞を破壊する力が強いという特徴があります。しかし、アルファ線の力が届く距離は0.1ミリ未満（体内）と短いことから、正常細胞に影響を及ぼすことは比較的少ないとされています。

治療回数について

ゾーフィゴは、4週間ごとに1回、静脈注射で投与します。最大6回の注射を受けたら、ゾーフィゴによる治療は終了です。

費用について

ゾーフィゴは、6回の治療で約400万円と高額ですが、「高額療養費制度」で患者さんの負担は軽減されます。

聖マリア病院では泌尿器科と核医学診療科が連携して治療を進めていきます。

まずは当院の泌尿器科を受診していただき、本剤の使用が適正であるかを確認します。適応であれば核医学診療科にて実際の治療スケジュールを患者さんと相談して決めていきます。

ゾーフィゴ治療についてご不明な点がございましたら、核医学診療科までおたずねください。

聖マリア病院 TEL : 0942-35-3322

核医学診療科/RI 検査室（内線 2683）